

<集計分析結果>

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年7月

<沖縄市>

目次

1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 世帯類型	[P. 1]
(2) 家族等による介護の頻度	[P. 1]
(3) 主な介護者の本人との関係	[P. 2]
(4) 主な介護者の性別	[P. 2]
(5) 主な介護者の年齢	[P. 3]
(6) 主な介護者が行っている介護	[P. 4]
(7) 介護のための離職の有無	[P. 5]
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 6]
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 7]
(10) 施設等検討の状況	[P. 7]
(11) 本人が抱えている傷病	[P. 8]
(12) 訪問診療の利用の有無	[P. 9]
(13) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 9]
(14) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 10]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 11]
(1) 主な介護者の勤務形態	[P. 11]
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 12]
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 13]
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 14]
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 15]
3 要介護認定データ	[P. 16]
(1) 年齢	[P. 16]
(2) 性別	[P. 16]
(3) 二次判定結果（要介護度）	[P. 17]
(4) サービス利用の組み合わせ	[P. 17]
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 18]
(6) 通所系サービスの合計利用回数	[P. 19]
(7) 短期系サービスの合計利用回数	[P. 20]
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 20]
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	[P. 21]

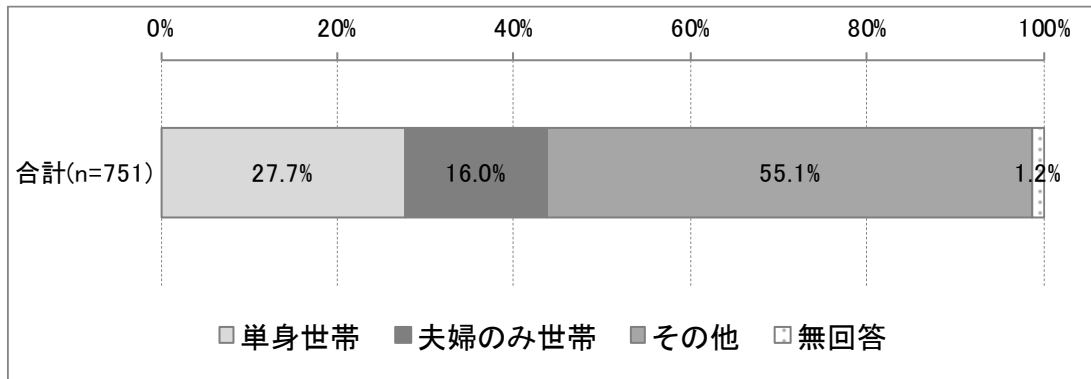
※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 55.1%となっている。次いで、「単身世帯（27.7）」、「夫婦のみ世帯（16.0%）」となっている。

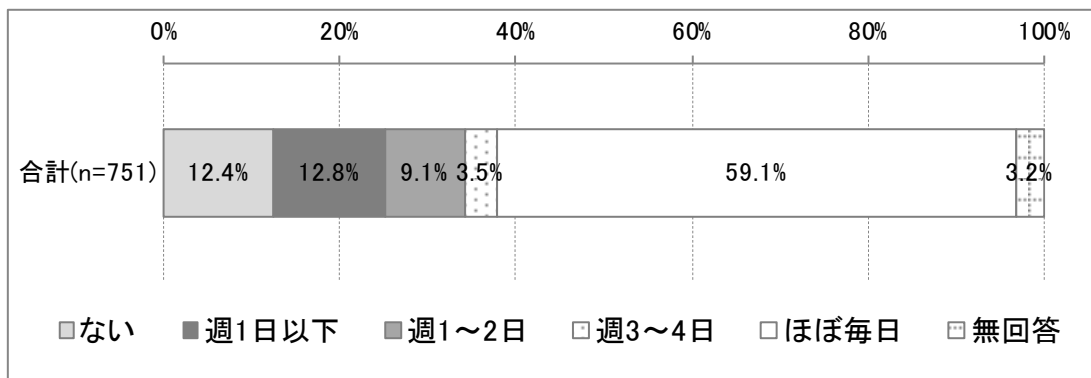
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 59.1%となっている。次いで、「週1日以下（12.8%）」、「ない（12.4%）」となっている。

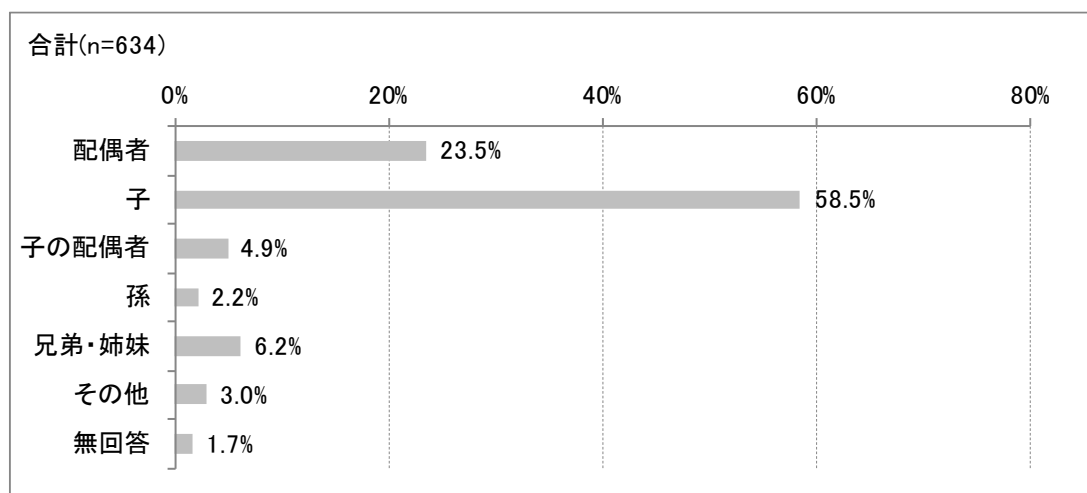
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 58.5%となっている。次いで、「配偶者 (23.5%)」、「兄弟・姉妹 (6.2%)」となっている。

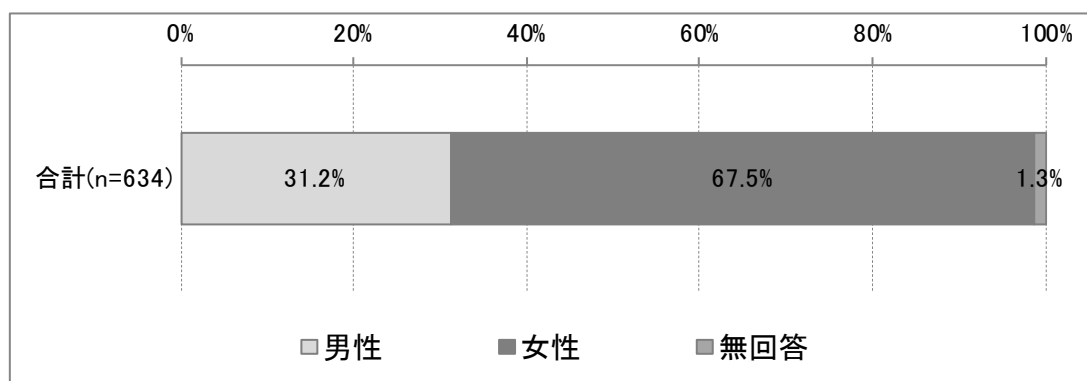
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係 (単数回答)



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 67.5%となっている。次いで、「男性 (31.2%)」となっている。

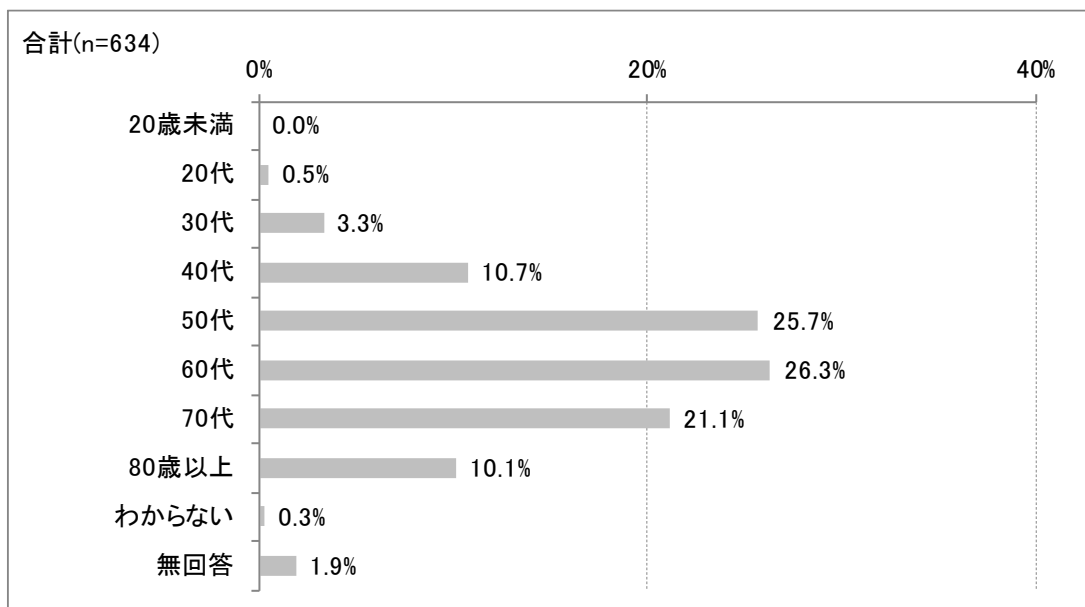
図表 1-4 ★主な介護者の性別 (単数回答)



(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く26.3%となっている。次いで、「50代(25.7%)」、「70代(21.1%)」となっている。

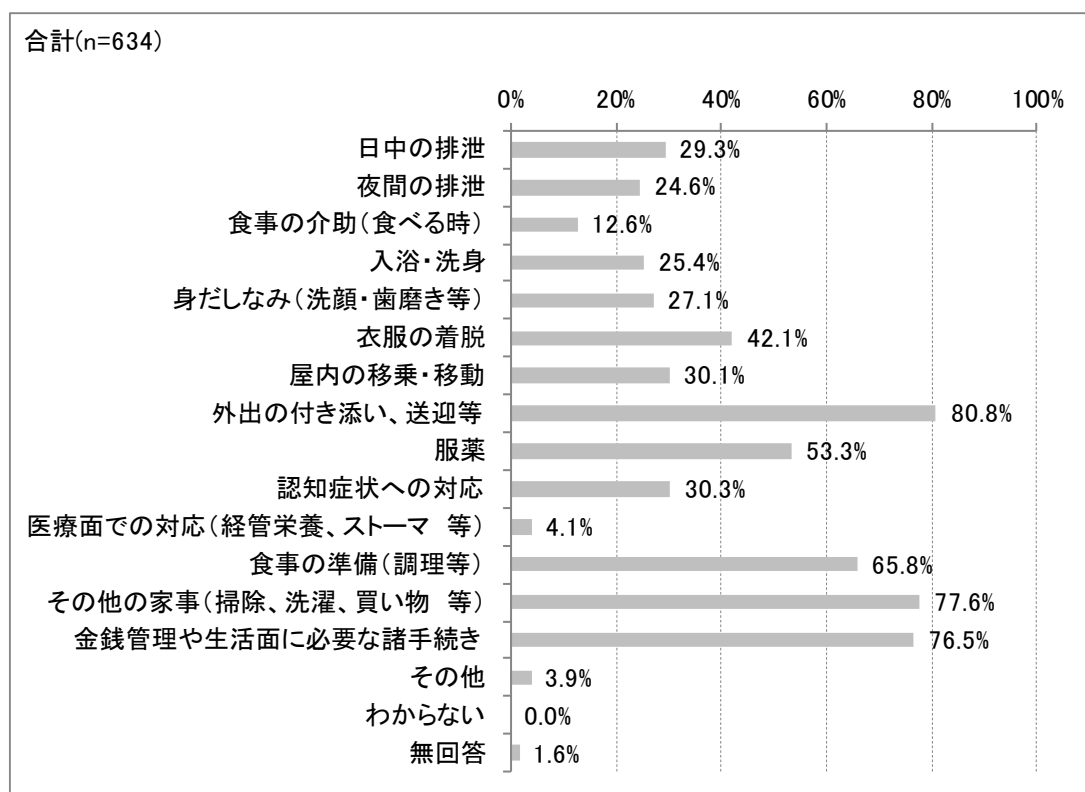
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 80.8%となっている。次いで、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）（77.6%）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（76.5%）」となっている。

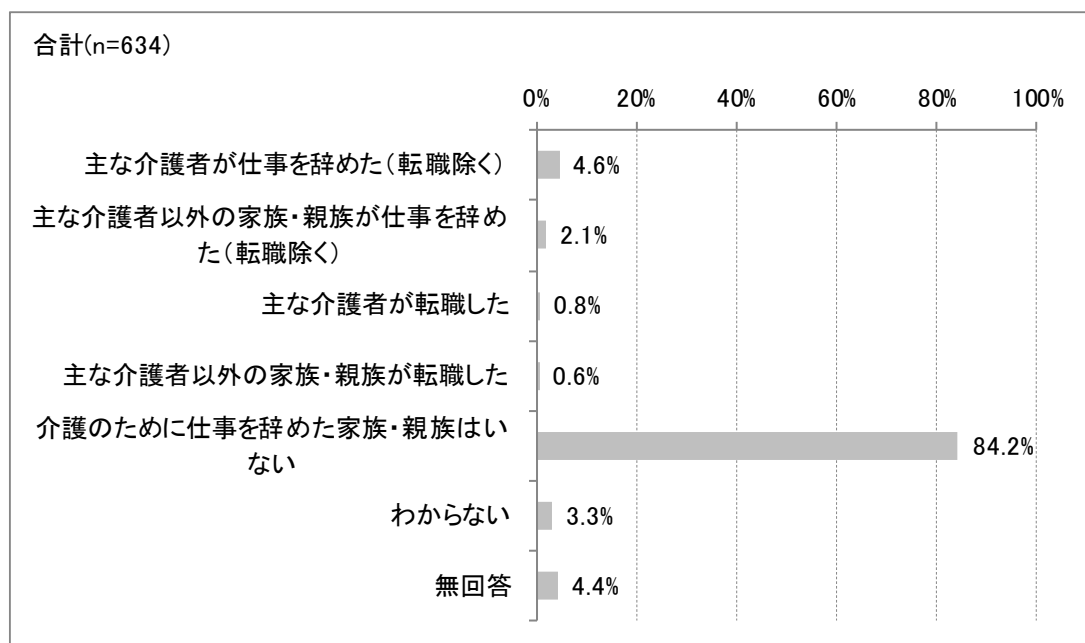
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 84.2%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（4.6%）」、「わからない（3.3%）」となっている。

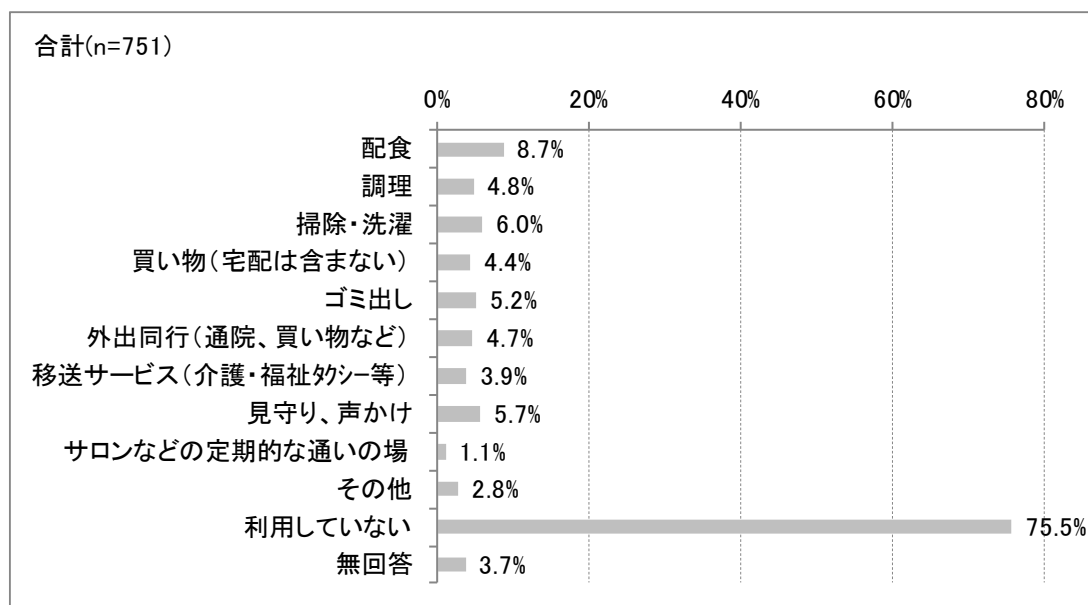
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 75.5%となっている。次いで、「配食（8.7%）」、「掃除・洗濯（6.0%）」となっている。

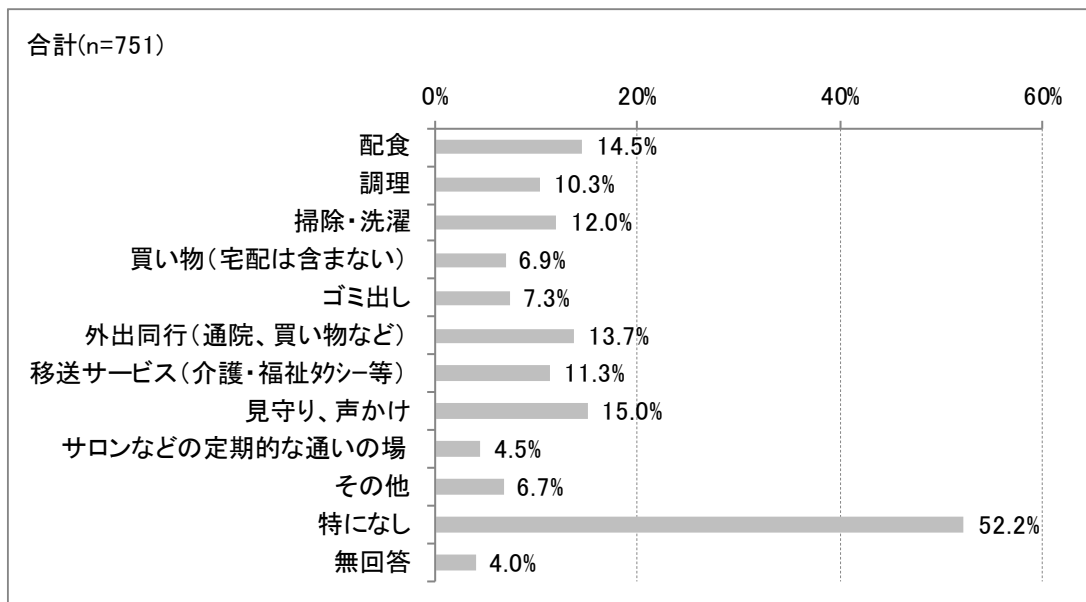
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 52.2%となっている。次いで、「見守り、声かけ (15.0%)」、「配食 (14.5%)」となっている。

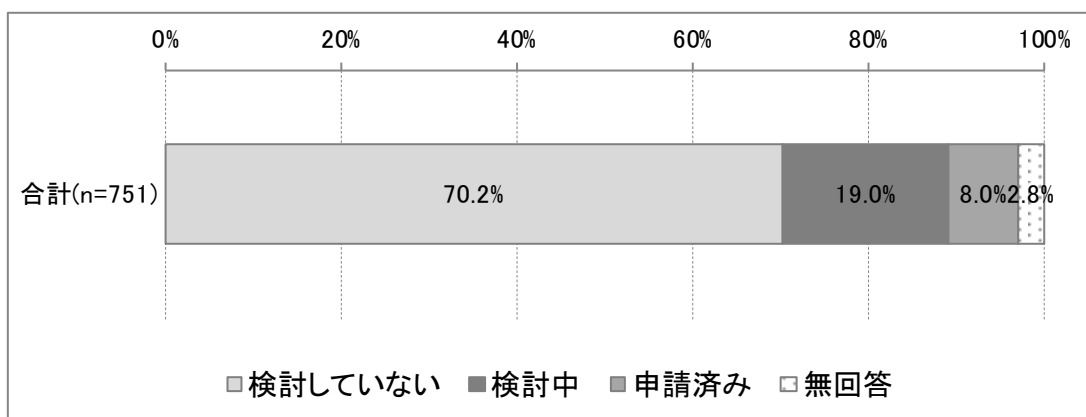
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス (複数回答)



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 70.2%となっている。次いで、「検討中 (19.0%)」、「申請済み (8.0%)」となっている。

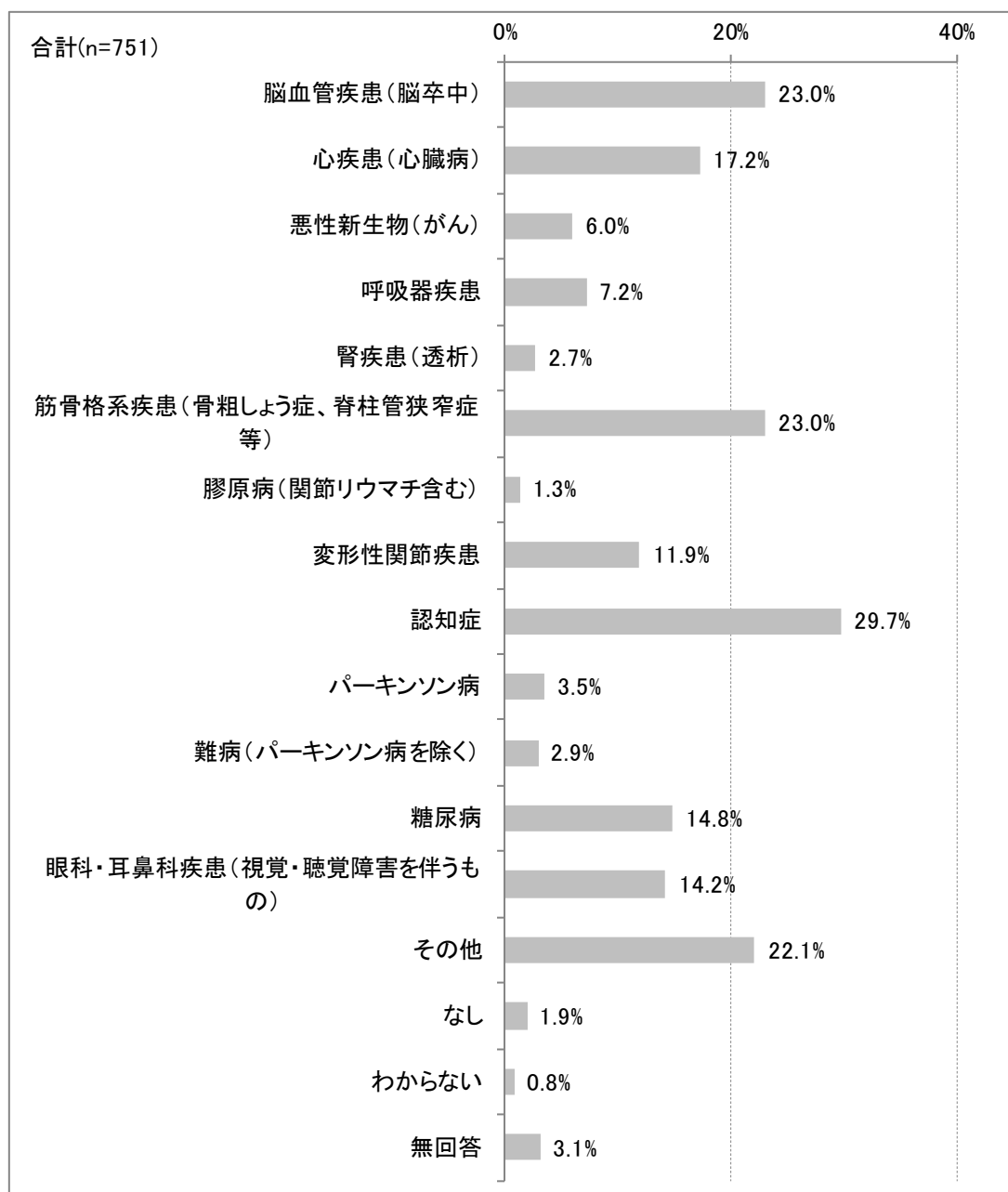
図表 1-10 施設等検討の状況 (単数回答)



(11) 本人が抱えている傷病

「認知症」の割合が最も高く 29.7%となっている。次いで、「脳血管疾患（脳卒中）（23.0%）」、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）（23.0%）」、「その他（22.1%）」となっている。

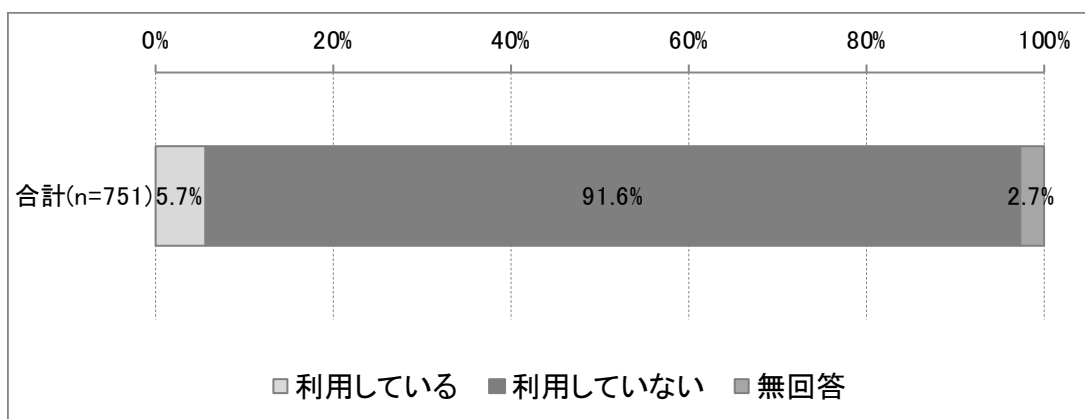
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 91.6%となっている。次いで、「利用している (5.7%)」となっている。

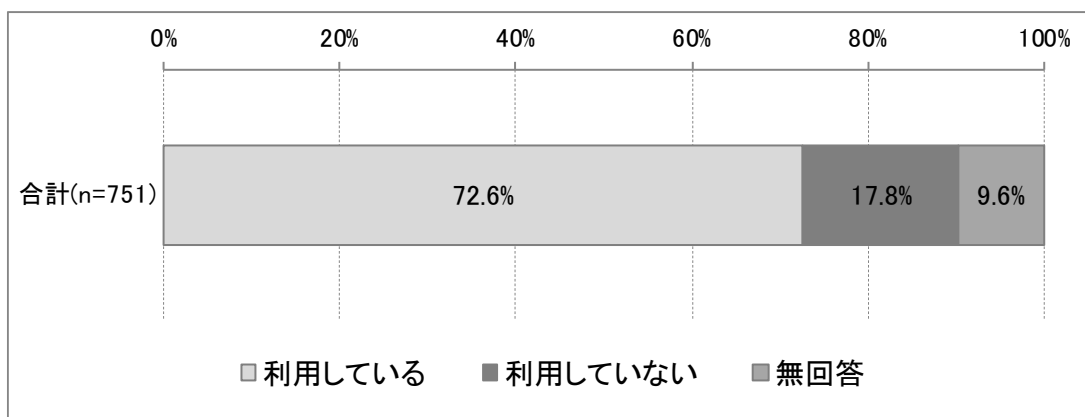
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無 (単数回答)



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 72.6%となっている。次いで、「利用していない (17.8%)」となっている。

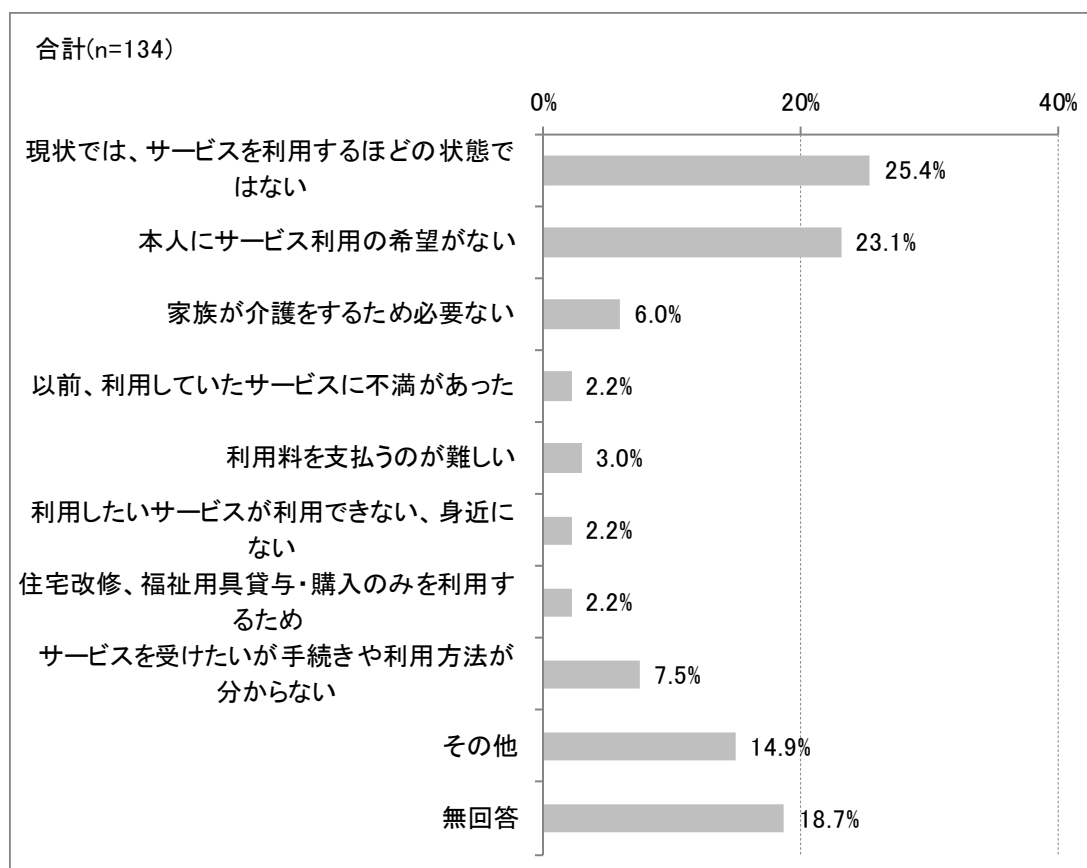
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無 (単数回答)



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 25.4%となっている。次いで、「本人にサービス利用の希望がない (23.1%)」、「その他 (14.9%)」となっている。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

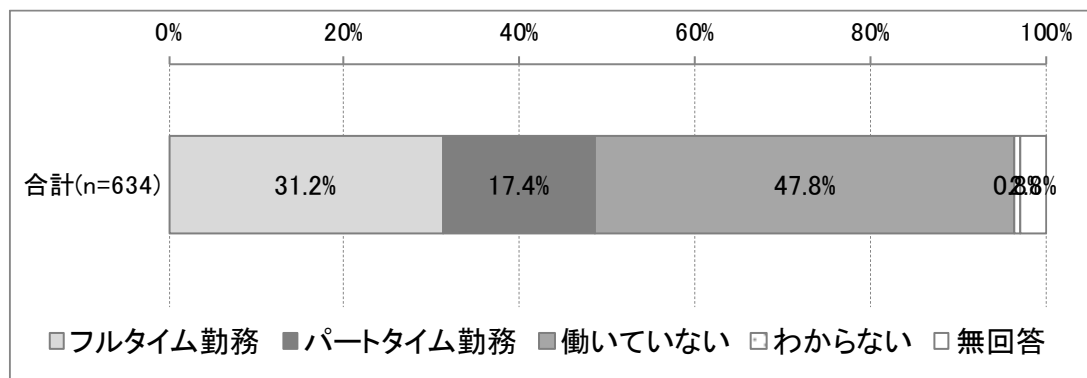


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 47.8%となっている。次いで、「フルタイム勤務 (31.2%)」、「パートタイム勤務 (17.4%)」となっている。

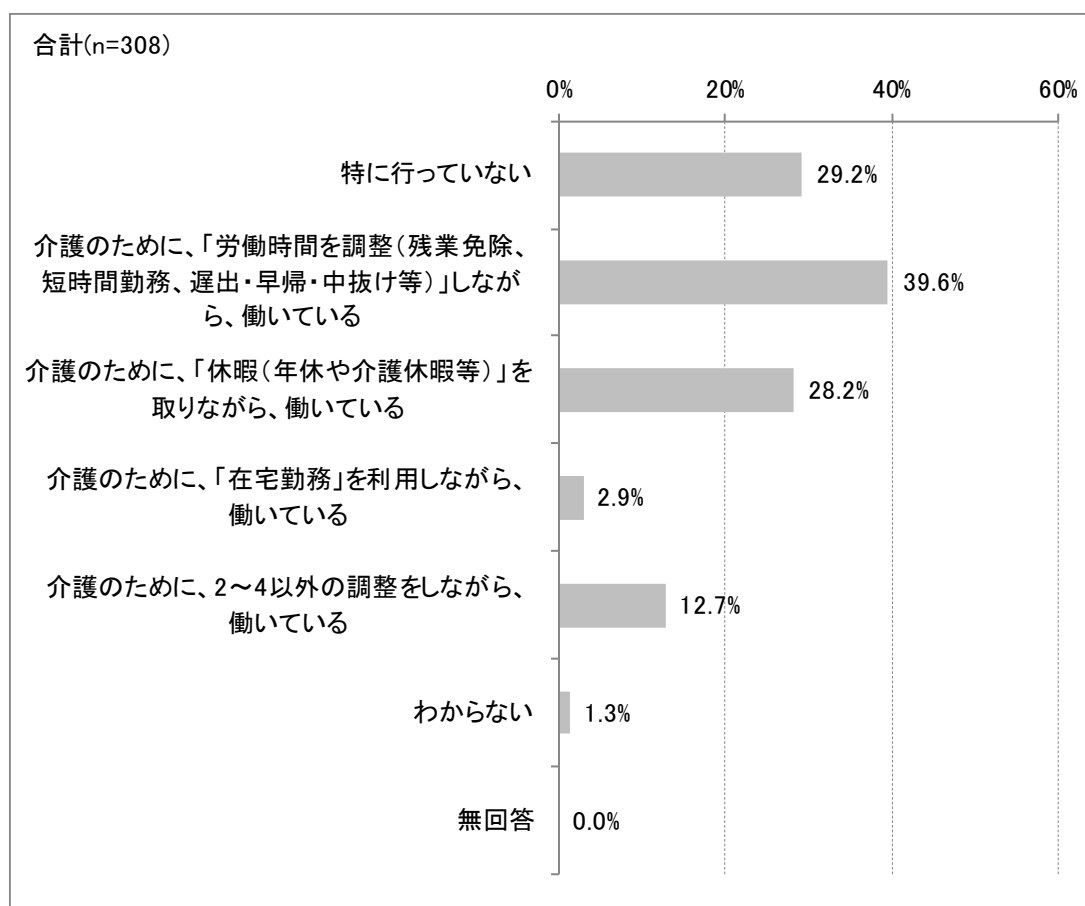
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が最も高く 39.6%となっている。次いで、「特に行っていない（29.2%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（28.2%）」となっている。

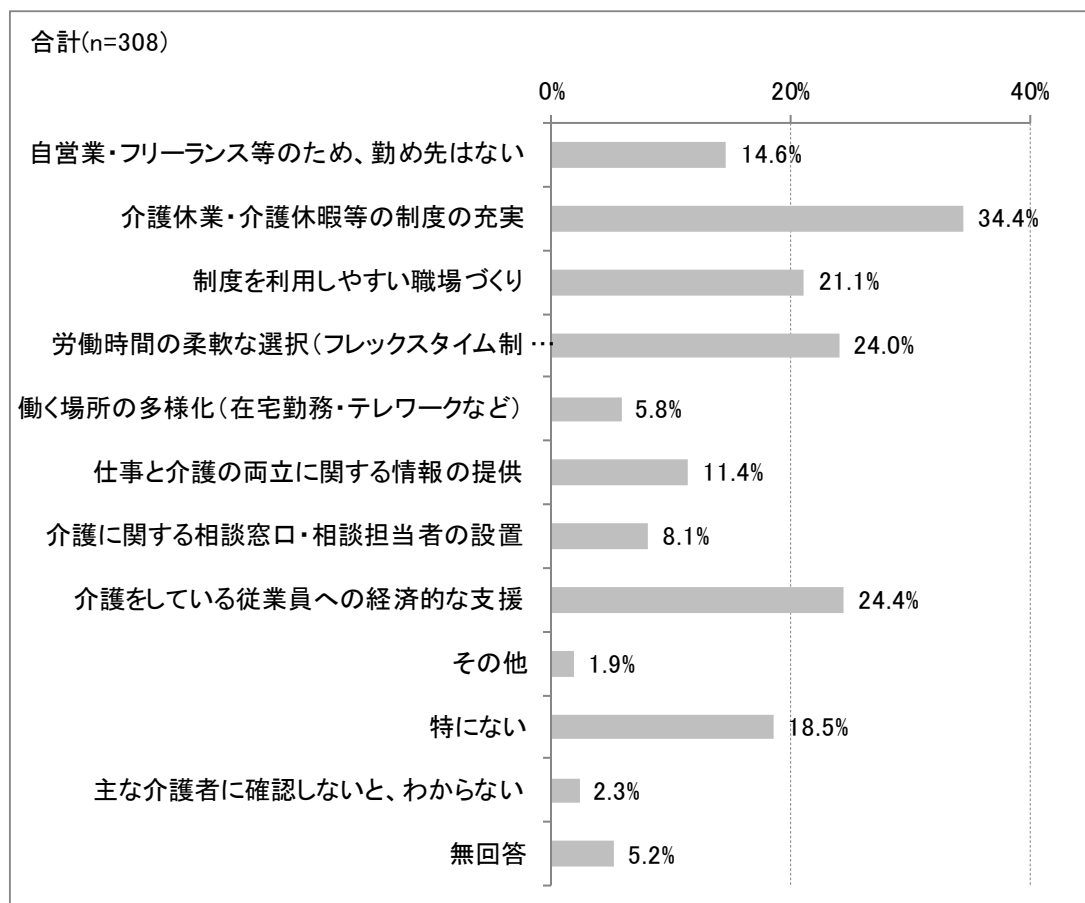
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く 34.4%となっている。次いで、「介護をしている従業員への経済的な支援（24.4%）」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）（24.0%）」となっている。

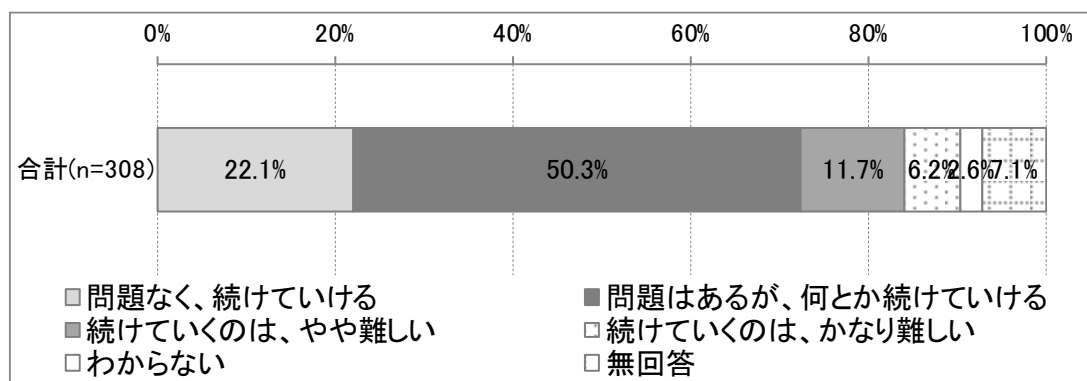
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 50.3%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (22.1%)」、「続けていくのは、やや難しい (11.7%)」となっている。

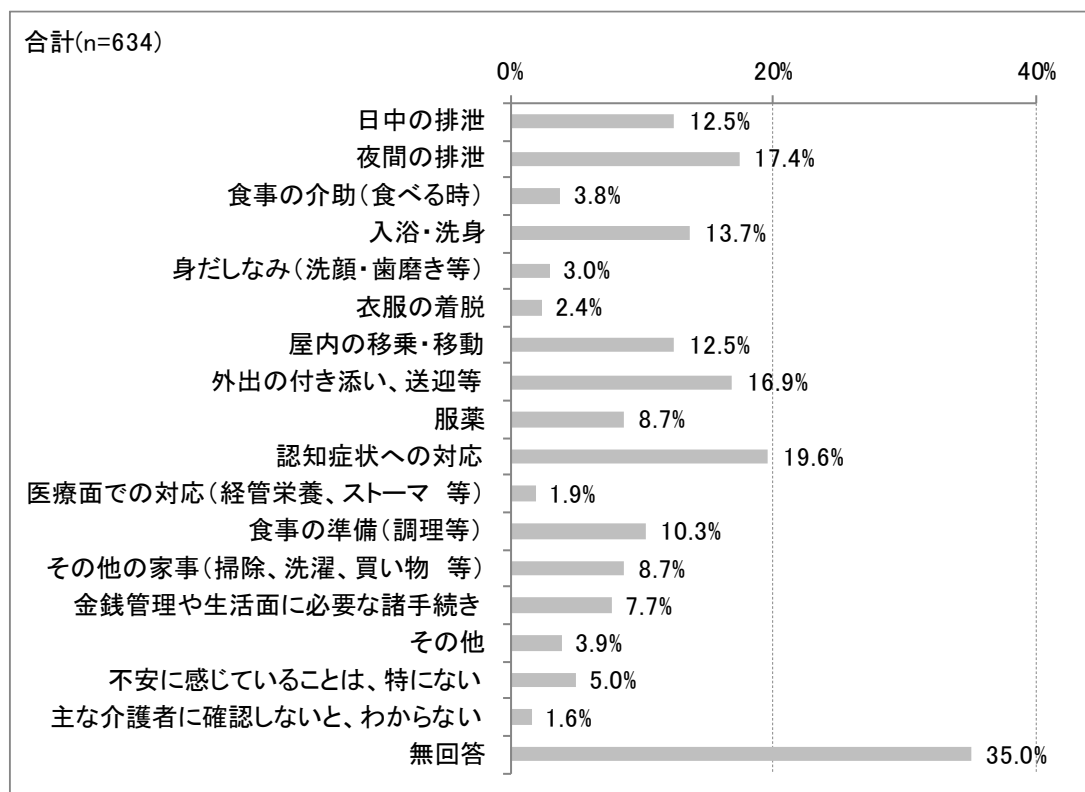
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 19.6%となっている。次いで、「夜間の排泄 (17.4%)」、「外出の付き添い、送迎等 (16.9%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 (複数回答)

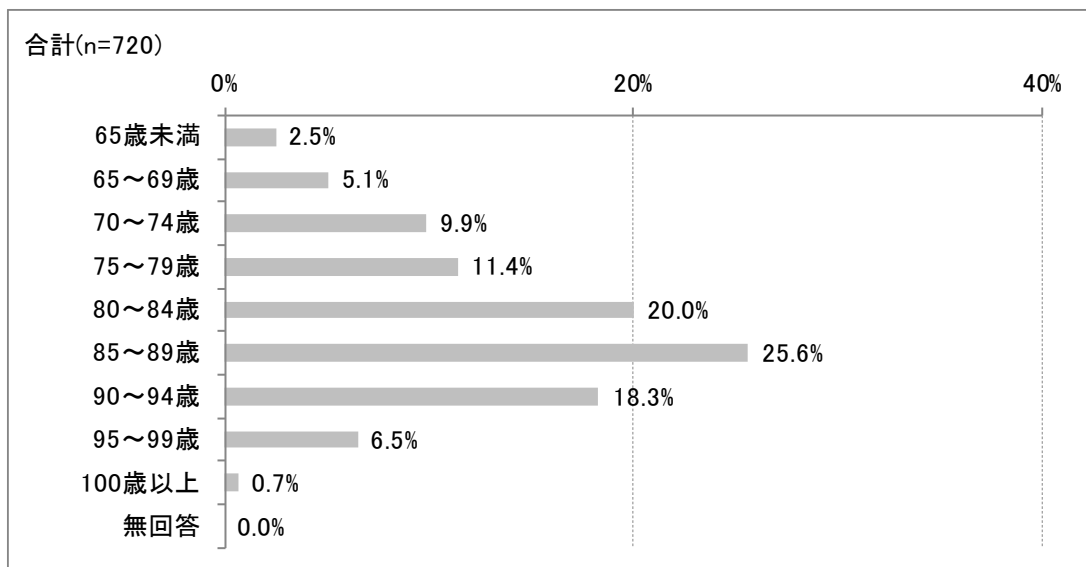


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く25.6%となっている。次いで、「80～84歳（20.0%）」、「90～94歳（18.3%）」となっている。

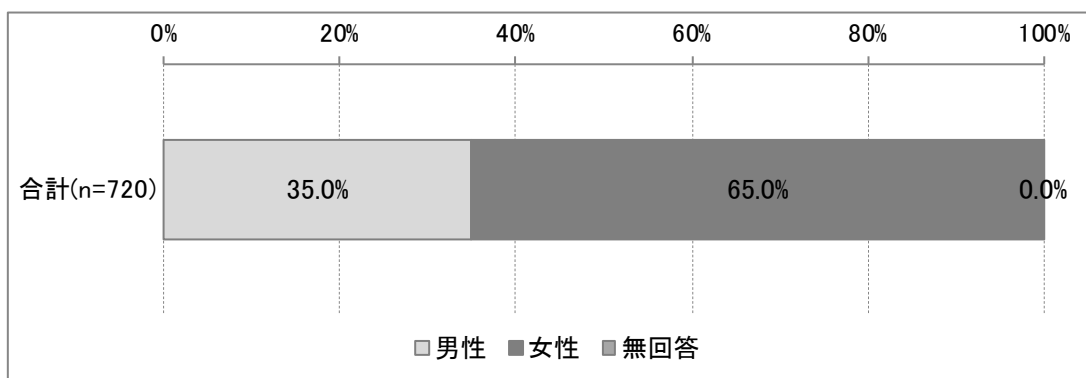
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く65.0%となっている。次いで、「男性（35.0%）」となっている。

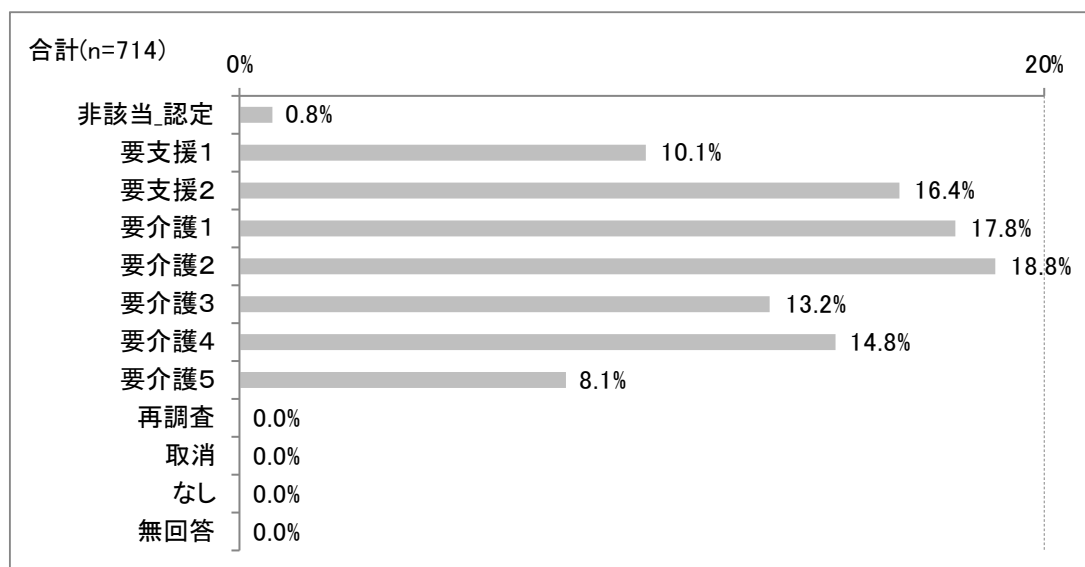
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護2」の割合が最も高く18.8%となっている。次いで、「要介護1（17.8）」、「要支援2（16.4%）」となっている。

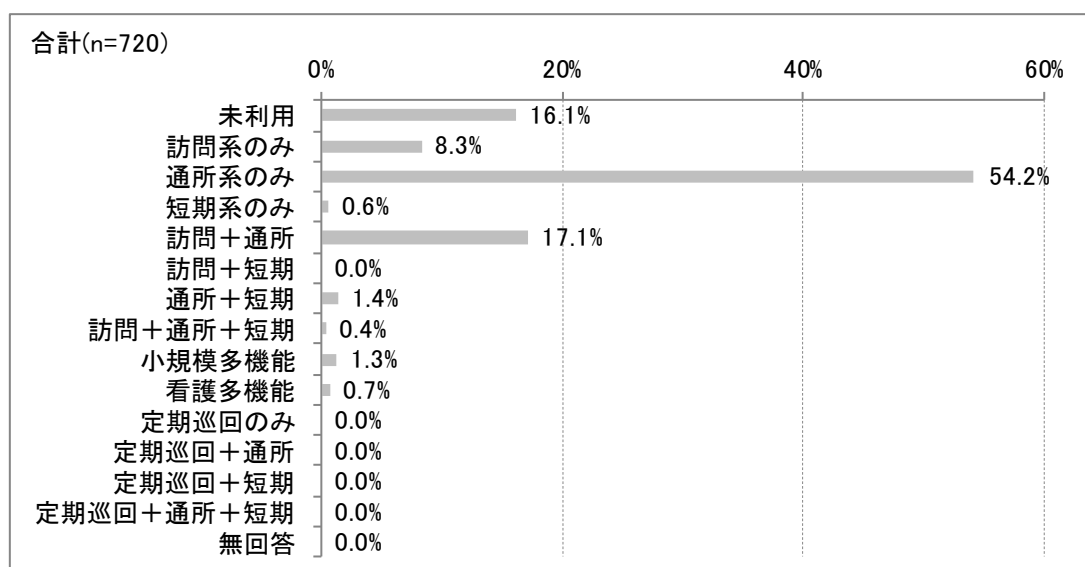
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く54.2%となっている。次いで、「訪問+通所（17.1%）」、「未利用（16.1%）」となっている。

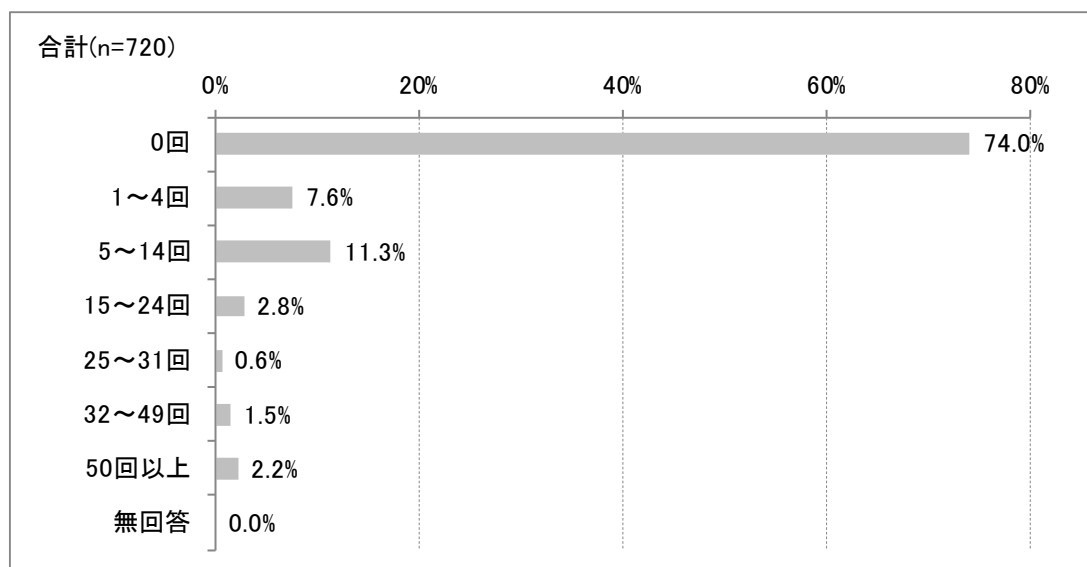
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く74.0%となっている。次いで、「5～14回（11.3%）」、「1～4回（7.6%）」となっている。

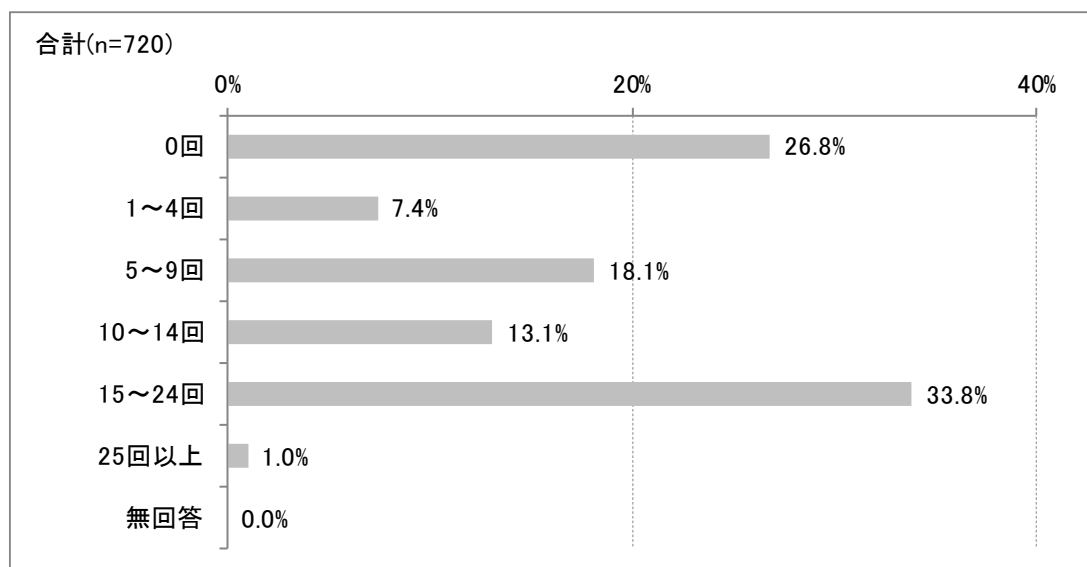
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「15～24回」の割合が最も高く33.8%となっている。次いで、「0回（26.8%）」、「5～9回（18.1%）」となっている。

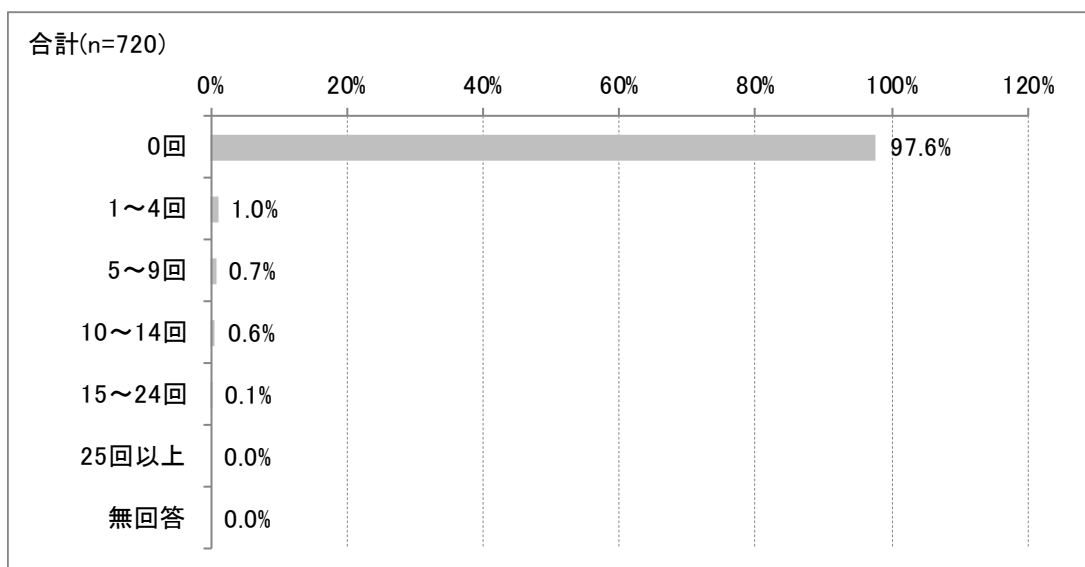
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く97.6%となっている。次いで、「1～4回（1.0%）」、「5～9回（0.7%）」となっている。

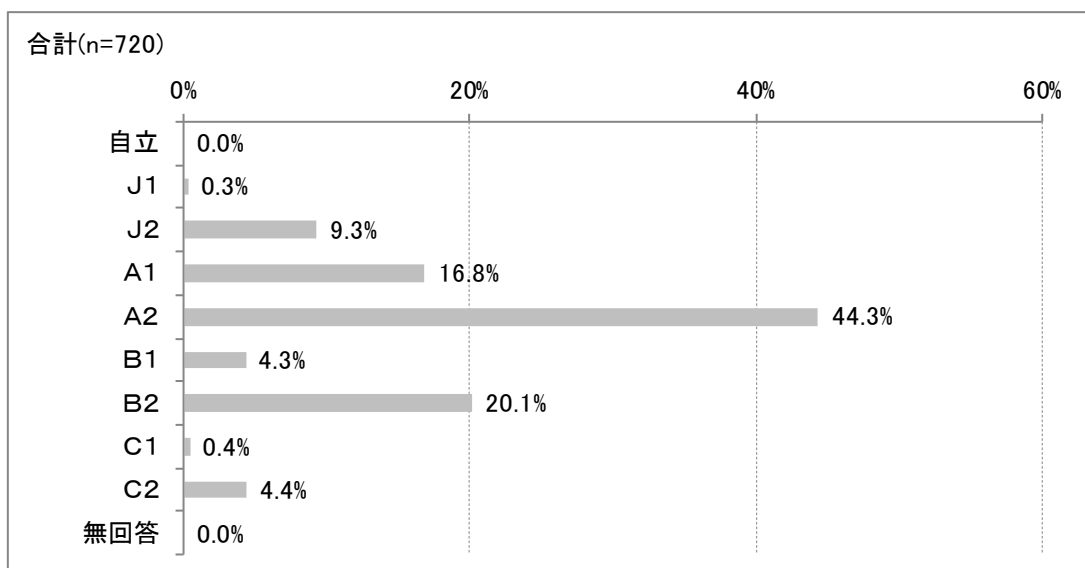
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A2」の割合が最も高く44.3%となっている。次いで、「B2（20.1%）」、「A1（16.8%）」となっている。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅱ b」の割合が最も高く 29.6%となっている。次いで、「Ⅰ (20.1%)」、「Ⅲ a (15.7%)」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

